

## 今日のデータ主導組織における PC の重要な役割

Sponsored by: Intel

Tom Mainelli  
April 2023

### IDC の見解

デジタル化が進む中、PCは、世界における多くのデータの生成、保存、管理において主要なデバイスであり続けている。PCはデジタル企業の生産性の要である。それにもかかわらず、ITに関する優先課題を議論する場面になると、ほとんどの組織がPCを後回しにしてきた。これは問題であり、古いPCをそのままにしておく、組織全体が意図しない多くの悪影響を受けるリスクがある。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の混乱が続く中で、多くの組織がこのアプローチの愚かさを実感した。IDCの調査では、インテリジェントを重視する企業は、厳しい経済状況下にあっても、以前から拡充してきたPCへの投資を継続しようとしている。その理由は、処理速度の速い新しいPCは、生産性を高めるだけでなく、企業データの保護という点で極めて重要なセキュリティの強化につながるためである。

企業のデータ量が飛躍的に増加し、そのデータの把握および管理に対する複雑性が増すにつれ、企業データの保護はIT管理者にとってより負担の大きい課題になっている。マルウェアやその他の悪意のある攻撃によって、組織が数か月に渡って活動不能になる可能性があるため、セキュリティは、IT意思決定者（ITDM：IT Decision Maker）にとって最大の懸案事項である。今日、PCベンダーは、より広範囲に及ぶセキュリティソリューションの出発点として、ハードウェアベース（hardware-integrated）のセキュリティソリューションを備えたシステムを構築しようとしている。これによって、IT管理者は自社のデータ管理が容易になり、従業員は新たな攻撃を受けても生産性を維持できる。

次世代のPCは、データの生成や保護を促進するだけでなく、適切な人材を組織へ参加させるための役割も担っている。企業が導入するPCは、採用しようとする候補者の質に直接影響を与える。働き手は、雇用主が提供するハードウェアを確認した上で、どの仕事に就くかを定めることが増えている。適切なツールの利用が、優秀な人材の確保に必要不可欠となりつつある。より優れた、より高速なPCによって、従業員は新たな方法でデータを扱うことができる。また、ハイブリッドワークの増加によって、従業員がいつでもどこで会社のデータに関わるかという想定も変化している。

働き手は、PCで使用するビジネス、生産性、およびセキュリティなどのアプリケーションについて、最終的には企業が決めることを望む一方で、自分の意見も聞いてほしいと考えている。このような動きは、次世代の働き手（ワーカー）が戦力に占める比率が高まるにつれて、ITの業務内容にも変化をもたらしている。

IT意思決定者の間では、PCの捉え方に関して、コスト重視から、従業員のエクスペリエンスや満足度を重視する方向へ明らかにシフトしている。インテルをスポンサーとするIDCの最近の調査では、企業のITDMの93%が、優秀な人材を雇用し確保する能力に関して、デバイスの選択が「やや重要」または「非常に重要」と答えている。従業員の満足度はITを使う上で配慮しなければならない重要事項ではあるが、セキュリティや管理の容易性を犠牲にして実現できるものではない。企業がPCで生成、保存、管理するデータは組織の生命線であり、そのデータへのアクセスや安全性を確保することについて妥協は許されない。本調査レポートでは、データ中心の世界におけるPCの重要性、ワークステーションなどの高性能製品の役割、およびAI（Artificial Intelligence：人工知能）などの新たなテクノロジーに関連して生まれる機会について、より詳しく

見ていく。最後に、本調査レポートでは、次世代の PC プロセッサがエコシステム全体で果たす重要な役割を考察する。

## 概況

### PC への継続的投資と新たな機能の重要性

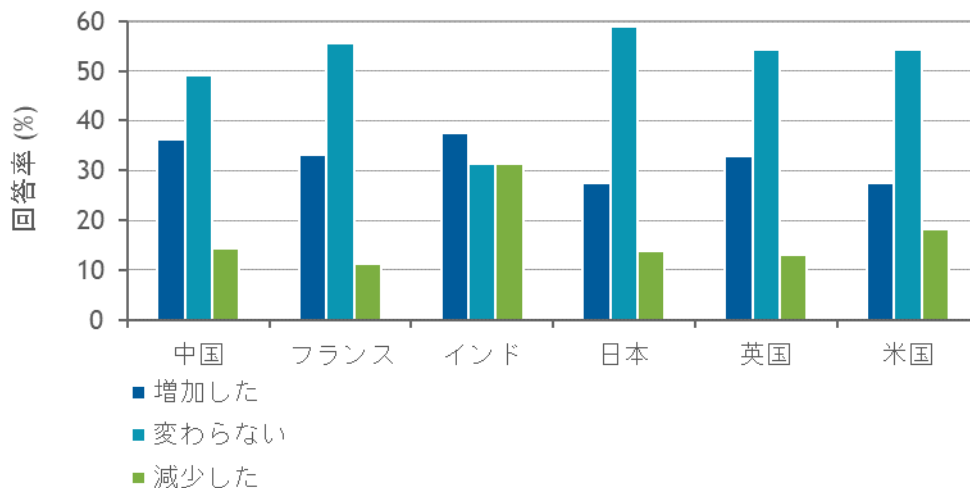
世の中がかつてないほどデータ中心に向けて進展する中で、ワークロードや仕事も変わりつつある。データワーカーはリアルタイム、かつデータ集約型ワークロードを実行しており、そこで求められる生産性を実現できる性能の PC が必要となる。

2020 年から 2021 年にかけて、ハイブリッドワークへの急激な移行に対応するため、多くの企業が新しい PC の購入を急がざるを得なかったが、インテルをスポンサーとする IDC の最近の調査では、それらの企業は PC への投資を減速させる予定はないとしている。6 か国（米国、英国、中国、フランス、インド、日本）の 785 人の ITDM に、IT 予算に占める PC の割合が 2021 年からこれまでの期間について、「増加した」「変わらず」「減少した」のいずれであったかをたずねたところ、2021 年には非常に多くの企業が PC の大量購入を行ったにもかかわらず、33% が「増加」、51% が「変わらない」と答えた。従業員数が 1,000 人を超える企業では、「増加した」と答えた割合は 34% とさらに高くなった。国別の詳細を Figure 1 に示す。

FIGURE 1

### 2021 年以降の PC への IT 支出の変化

Q. あなたの会社の PC 用の IT 予算の割合は、2021 年以降増加しましたか、減少しましたか、それとも変わりませんか？



n = 785

Source: IDC and Intel Modern PC Survey, 2023

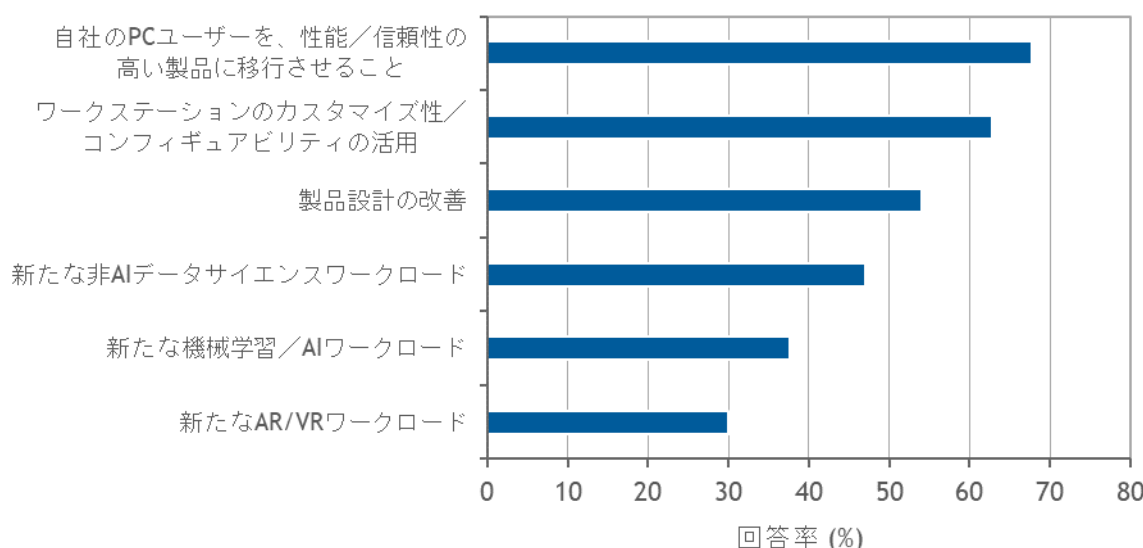
変化しているのは、職場に配備される PC の台数だけではない。それらの新たなデバイスで行う業務内容（質）も変化している。コンピュータ処理の利用頻度の高い従業員を対象として、ワークステーションに投資する企業が増えている。2021 年、ワークステーション市場は前年比成長率 40% で拡大した。2022 年については他の市場と同様に成長は鈍化した。モバイルワークステーションカテゴリーの拡大によって、今後数年のうちに成長が再開されると IDC は予測している。

ITDMを対象に、ワークステーションについてたずねたところ、62%がすでにPCの購入対象に加えていると答え、そのうちの42%が、昨年社内に配備するワークステーションの台数を増やしたと回答している。Figure 2に示すように、ワークステーションを導入する理由は多岐に渡るが、ほとんどのITDMは、ワークステーションのカスタマイズ性とコンフィギュアビリティ（構成変更の容易性）を生かすために、ワークステーションの台数を増やしたとしている。

**FIGURE 2**

**ワークステーションの導入を拡大する理由**

Q. あなたはワークステーションの導入を拡大したと回答しました。拡大の動機は何ですか？



n = 183

Source: IDC and Intel Modern PC Survey, 2023

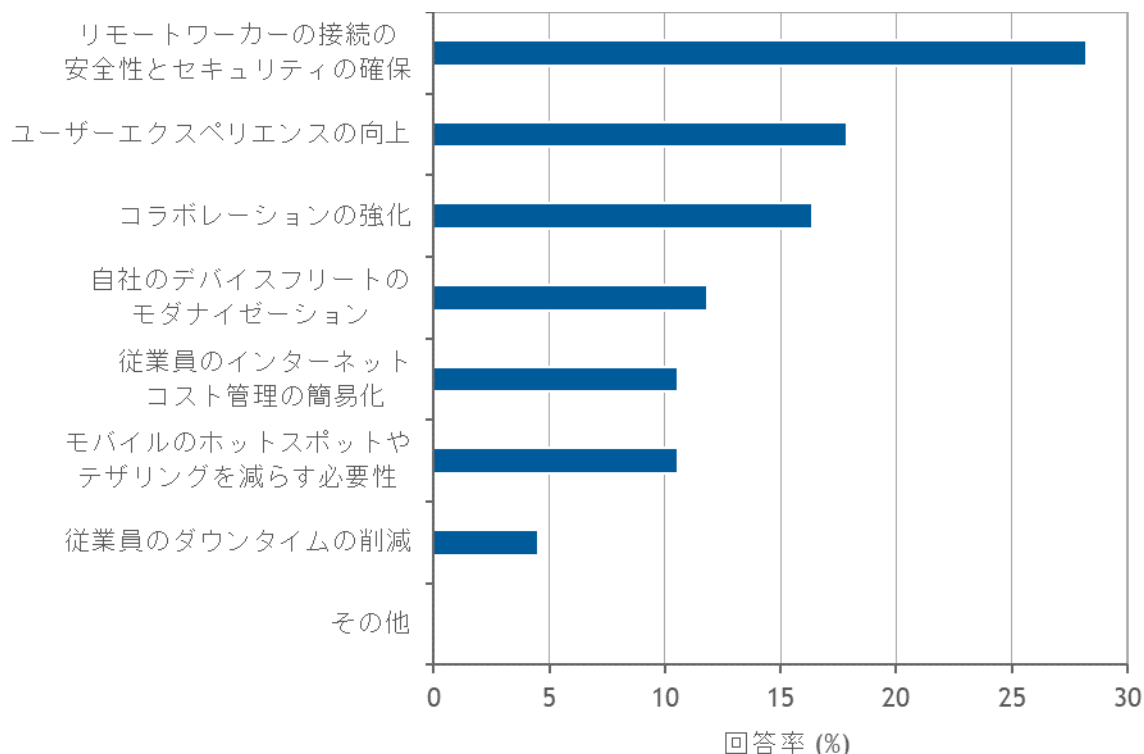
近い将来、もう一つのPCカテゴリである5G/LTE（Long Term Evolution）対応のノートブックPCが成長すると思われる。5G/LTE対応のノートブックPCを使用すると、従業員はより安全かつセキュアにデータへの常時接続を維持できる。5Gによって、帯域が大きくなり、レイテンシー（遅延）が下がり、セキュリティが向上し、より多くのデバイスをネットワークに接続できるようになった。5Gが普及すると、より多くのデータがエッジに集約され、データ中心の世界が限界まで加速され、従業員に対しては高い生産性を維持するために必要なキャパシティの増加がもたらされる。

今回のIDCの調査では、約51%の企業が5G/LTE対応のノートブックPCをすでに導入しているか、導入予定であるとしている。常時接続PCのベネフィットは数え切れないほどあるが、ITDMが述べた理由の上位3項目として、リモートワーカーの接続の安全性とセキュリティの確保（28.2%）、ユーザーエクスペリエンスの向上（17.9%）、コラボレーションの強化（16.4%）が挙げられていた。詳細をFigure 3に示す。

FIGURE 3

### 5G/LTE 対応 PC のベネフィット

Q. あなたは5G/LTE 対応のノートブックPCをすでに導入した、または今後導入する可能性が高いと回答しました。常時接続PCの最大のベネフィットは何だと思いますか？



n = 397

Note: グラフ内の「デバイスフリート」は、デバイス製品群を指す

Source: IDC and Intel *Modern PC Survey*, 2023

法人向け PC の導入台数が増え、従業員が新しいやり方で取り組むようになると、毎日膨大な量のデータが生成される。そのデータの大部分はコンテンツ制作、エンジニアリング、モデリングに使用されているが、PC の動作状況をリアルタイムでフィードバックすることも可能である。これによって IT 部門は、セキュリティ、ハードウェア、ソフトウェアの潜在的な問題が、エンドユーザーエクスペリエンスに悪影響を与える前に特定し、よりプロアクティブな運用が可能となる。IT 管理者にとって、従業員のセキュリティ、生産性、満足度の維持は最も重要である。さらに、このデータを取得し分析することによって、IT 部門はそれぞれの従業員の業務に適した PC を提供できるようになる。

### データの増加

データ中心の世界とは、クラウドだけの世界を意味しない。今回の IDC の調査では、クラウド管理とデータストレージが拡大しているにもかかわらず、企業のデータの約 19% はいまだに PC のローカルなストレージに保存されている。

Global DataSphere（世界中で生成および保存されるデータの量）は、2016 年～2026 年の年間平均成長率（CAGR：Compound Annual Growth Rate）25% で成長し、2016 年には 25ZB（ゼタバイト）であった新規データが 2026 年には 221ZB にまで拡大する。今後 5 年間に生成されるデータの量は、少なくとも過去 10 年間に生成された量の 2 倍になるであろう。

セキュリティはデータ中心の世界において、必要不可欠な機能であるが、現代社会においてデータの保護は容易ではない。残念ながら多くのデータが保護されていない状態であり、企業は危険にさらされている。ハードウェアベースのセキュリティ機能を備えた PC であれば、これらのデータを保護できる。データの保護を進める鍵は、IT 部門の負担を軽減することと、組織全体のセキュリティ戦略構築の出発点として、すべての PC が、ハードウェアベースのセキュリティソリューションによって確実に保護される仕組みを確立することである。

## IT 意思決定者

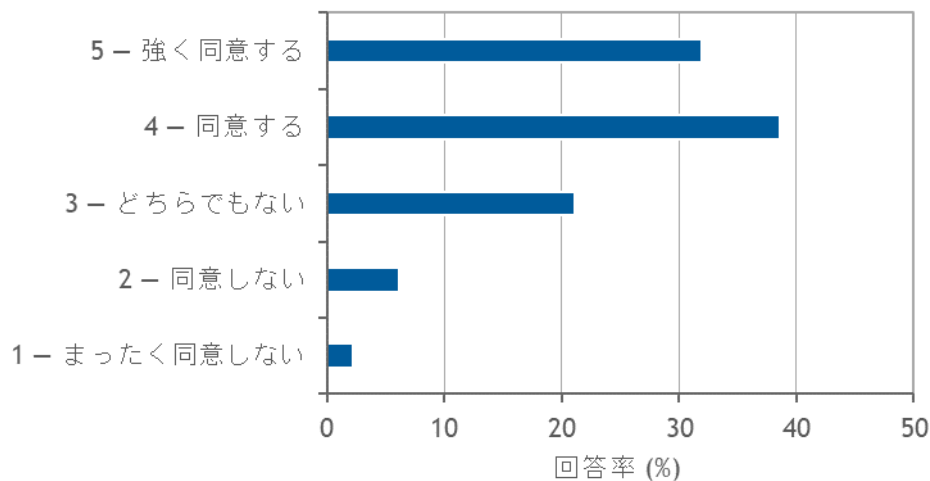
PC がデータ中心の世界で新たな役割を担うようになり、ITDM の優先順位と懸案事項が変化している。従業員はどのようなテクノロジーが配備されるかについて発言したいと考えており、それは彼らが役割を受け入れ業務を継続するかどうかにか直接結びついている。

IDC の調査では、ITDM の 51% が、従業員の採用と維持に関して、PC の品質が「ある程度重要」とし、43% が「非常に重要」と回答している。Figure 4 に示すように、その重要度は、若いミレニアル世代や Z 世代の有望な人材の採用においてさらに高まることになる。

## FIGURE 4

### 若い従業員の満足度に対するテクノロジーの影響

Q. 次の記述についてどの程度同意しますか？「若いミレニアル世代や Z 世代の有望な人材は、新入社員に最新の高性能 PC が与えられる職を選ぶ可能性が高い」



n = 785

Source: IDC and Intel *Modern PC Survey*, 2023

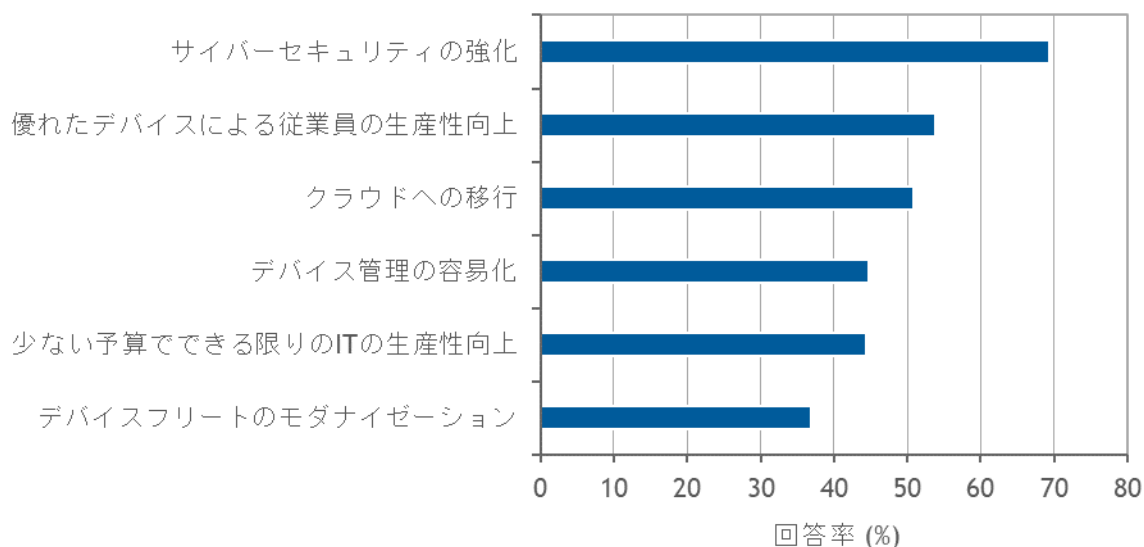
ITDM は、適切なデバイスを適切な担当者へ適切に配備し、そのデバイスとそのデバイスで生成され保存されるデータを保護することを責務としている。IT 業務は時代と共に複雑さを増しており、パンデミックによるハイブリッドな働き方（ハイブリッドワーク）へのシフトが進んだことによって、それらの業務は、より複雑なものになっている。

今回の IDC の調査では、IT 意思決定者にとって優先度の高い IT トピックの上位 4 項目は 1 位から順に、「サイバーセキュリティの強化」「優れたデバイスによる従業員の生産性向上」「クラウドへの移行」「デバイス管理の容易化」であった（Figure 5 を参照）。

FIGURE 5

## IT 意思決定者の懸案事項の上位 5 項目

Q. 次の IT トピックのうち、現在、あなたの会社で優先順位が高いものはどれですか？



n = 785

Note: グラフ内の「デバイスフリート」は、デバイス製品群を指す

Source: IDC and Intel *Modern PC Survey*, 2023

デバイス管理とサイバーセキュリティが上位に入っている理由は明らかである。エンドポイントへの攻撃が高度で複雑なものに変化し、IT 管理者は、組織のデバイスとデータに対する脅威の変化への対応に苦慮している。セキュリティ侵害に対するデバイスの耐性を高めるために、BIOS 起動の時点で PC を保護するハードウェアソリューションなどの新たな取り組みが進んでいる。ハードウェアベースのセキュリティ機能を開発し、PC の OEM (Original Equipment Manufacturer、委託者のブランドで製品を生産するメーカー) との連携によって、その機能を PC ソリューションに組み込み、従業員とデータの安全性維持に積極的に取り組む半導体ベンダーを選択することによって、PC 自体がこの新たな世界での防御の最前線になる。

PC の役割は変わり続けているが、ITDM の最大の懸案事項は、やはり性能 (パフォーマンス) である。調査対象者に PC を選ぶ際に重視する点をたずねたところ、ハードウェアの性能 (パフォーマンス) が 1 位 (84%) を堅持しているが、セキュリティ (75%) が僅差で続いている。この 2 点は、価格 (55%)、サポート (38%)、ブランド (31%) を大きく引き離している。

従業員の生産性向上が進むことと、デバイスの選択肢が増えることによって、多様な機種で構成される集合体としての PC の管理と保護が難しくなる場合がある。リモートワーカーの存在や、ワークプレイスホテリング (ホテルの部屋を借りて仕事をする従業員) など、柔軟なスタッフモデルを備える現代の企業では、この問題がさらに深刻になる。10 年前は、コスト、管理のしやすさ、セキュリティの観点から、オフィスにおいて標準的なデバイスを使って業務が遂行されていた。今日、業務はいつでもどこでも、さまざまな場所で行われている。そのためコストと複雑さが増しており、信頼できるパートナーを選ぶことがいっそう重要になっている。

## インテルについて

---

インテルはこの10年間、PC分野における最も革新的なイノベーションの中心的存在であり、それを実現してきた。Ultrabook（ウルトラブック）の仕様に関するOEMとの初期の共同作業では、今日まで続くウルトラスリムノートブック設計の革命に拍車をかけた。マイクロソフトとは2 in 1（ツーインワン）に関する協業を進め、コンバーチブルノートブックPCや取り外し可能（デタッチャブル）なカテゴリーを進化させた。

今後のPCは、インテルのProject Athena イノベーションプログラムによって、従業員に最適なワークエクスペリエンスを提供できるよう、ますますチューニングされるであろう。現在最も人気のある多くのPCには、インテルが搭載されている。先見性があるIT管理者は、インテルが搭載されている薄型で軽量のコンバーチブルノートブックPC、取り外し可能な（デタッチャブル）タブレット、コンパクトなデスクトップ、オールインワンPCなど、幅広い製品ラインナップを慎重に検討するであろう。つまり、インテルは、企業が必要とする生産性とセキュリティを向上させながら、従業員が望むフォームファクターを提供するのである。

さらに、インテルのvProプラットフォームは、「エンタープライズ向け」の代名詞となっている。インテルvProプラットフォームは、現代の企業のニーズをサポートし、生産性を高め、ビジネスクラスの仕様/規格によって安心感をもたらすよう構築されている。vProを搭載したPCは、さまざまな価格帯や性能が用意されており、現在はワークステーションユーザー向けにXeonクラスのプロセッサにも搭載されている。企業は、インテルvProプラットフォームベースのデバイスによって、一般職員からパワーユーザーまですべてのユーザーにサービスを提供できる。

インテルvProプラットフォームは、ハードウェアに実装されたセキュリティ機能によって、企業を守ることができる。リモート管理機能も備わっているため、システムが停止（ハングアップ）状態でも電源がオフになっていても、社内でも社外でも、よりシームレスな導入、統合、管理が可能となる。

従業員の生産性と実用性を向上させながら、IT管理者が複雑な業務に対応できるようにすることが、インテルvProプラットフォームが企業に強く支持されている理由である。IDCの調査では、38%の企業が「所有したいPC」または「所有すべきPC」のいずれかにvProを挙げている。

## 課題と機会

---

あらゆるPCモダナイゼーションへの取り組みの課題は、変化を必要とするということである。この3年間は、企業にその準備ができていたかどうかを問わず、その変化がもたらされた。そして現在、優秀な人材の争奪戦は激しくなる一方であり、現代の企業が人材を採用し維持する能力に関して、デバイスの選択が果たす役割はますます大きくなるという調査結果がある。PC戦略を再考することによって、企業はPCチェーン（関連事項）を優先する必要に迫られるであろう。

最新のPC戦略に取り組む企業は、かつてないほどエキサイティングなデバイスを多数見つけることになるであろう。その結果、従業員の生産性と満足度を長期的に向上させることにつながるはずである。

## 結論

---

PCは依然としてデータの生成、アクセス、管理の起点であり終点であるが、PCの重要性についての考え方を改めるべき企業は多い。IT部門は、従業員エクスペリエンスの強化についてさらに考慮する必要があるだけでなく、複雑化が進むインフラを管理し保護することも必要である。インテルのvProプラットフォームは、IT管理者に対し、彼らのユーザーが平穏かつ業務遂行に満足できるツールを届けることになる。

## IDC 社 概要

International Data Corporation (IDC) は、IT および通信分野に関する調査・分析、アドバイザーサービス、イベントを提供するグローバル企業です。50年にわたり、IDCは、世界中の企業経営者、IT 専門家、機関投資家に、テクノロジー導入や経営戦略策定などの意思決定を行う上で不可欠な、客観的な情報やコンサルティングを提供してきました。

現在、110 か国以上を対象として、1,100 人を超えるアナリストが、世界規模、地域別、国別での市場動向の調査・分析および市場予測を行っています。

IDC は世界をリードするテクノロジーメディア（出版）、調査会社、イベントを擁する IDG（インターナショナル・データ・グループ）の系列会社です。

## Global Headquarters

140 Kendrick Street  
Building B  
Needham, MA 02494  
USA  
508.872.8200  
Twitter: @IDC  
blogs.idc.com  
www.idc.com

---

### Copyright Notice

External Publication of IDC Information and Data – Any IDC information that is to be used in advertising, press releases, or promotional materials requires prior written approval from the appropriate IDC Vice President or Country Manager. A draft of the proposed document should accompany any such request. IDC reserves the right to deny approval of external usage for any reason.

Copyright 2023 IDC. Reproduction without written permission is completely forbidden.

